



ツツジシンクイムシの防除

Q. サツキの新芽が図-1のように枯れてしまって花が咲きませんでした。どうすれば防げるでしょうか。

A. ツツジシンクイムシ（ベニモンアオリンガ、図-2、3）の仕業です。カルホスなどの殺虫剤を散布して防ぎます。

《ポイント》

発生時期は4～5月、6～7月、8～9月の3回です。この時期の防除が大切です。



ベニモンアオリンガ 183
新芽の先端が褐色になって枯れる。その枯れた新梢の基部には小孔がある

図-1 枝先の症状

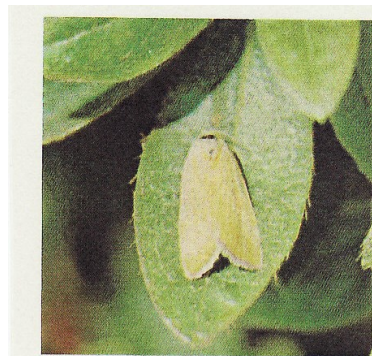


図-2 成虫



図-3 幼虫

- 1 ベニモンアオリンガは芽の先や蕾だけを食べて、1匹のムシが次々と新芽を移動するので被害が大きくてもなかなかムシが見つかりません。
- 2 芽や蕾に食い込んだムシは、約1ヶ月後に蕾の中でサナギになります。
- 3 防除は適期をとらえるのがむずかしいので、薬剤の効いている期間の長いカルホス乳剤（15～20日くらい）を散布します。発生前から1000倍液を2～3週間おきに散布すればかなり防げます。



エンゼルス トランペット（チョウセンアサガオ）の毒

Q. エンゼルス トランペットの花が上向きに咲くものは有毒だと聞きました。下向きのものは無毒なのですか。

A. 花が上向きに咲くものも下向きの咲くものも、どちらも有毒です。ただし、口に入れて食べるようなことをしなければそれほど恐れることはありません。

《ポイント》

コダチチョウセンアサガオ (*Datura arborea* L.) の花は下向きに咲き、チョウセンアサガオ (*Datura metel* L.) の花は上向きに咲きますが、花の向きには関係なく、どちらも有毒植物です。

- 1 チョウセンアサガオ属の毒は、トロパン アルカロイドのヒヨスチアミン、アトロピンなどです。
- 2 トロパンアルカロイドは一般に副交感神経抑制作用、中枢神経興奮作用を示します。多量で幻覚、錯乱状態におちいります。
- 3 チョウセンアサガオの成分スコポラミンは催眠作用があり、以前は手術の麻酔時に使われました。
- 4 食べたりしなければ大丈夫ですので、注意して栽培しましょう。



コダチチョウセンアサガオ



チョウセンアサガオ